JET STREAM

World Cruise 1

ベニス発パリ北駅／ノスタルジック ヨーロッパ
FROM VENICE TO PARIS / NOSTALGIC EUROPE

1.	ミスター・ロンリー *MR. LONELY (G. ALLAN / B. VINTON)*	4:21
2.	ベニスの愛 *AMONIMO VENEZIANO (S. CIPRIANI)*	4:47
3.	恋人たちのテーマ *LE AMANTS (C. DAMONT)*	3:29
4.	カサンドラ・クロス *IT'S ALL A GAME (J. GOLDSMITH)*	4:32
5.	メリー・ゴーランド *L'ULTIMA NEVE DI PRIMAVERA (F. MICALIZZI)*	5:17
6.	アナスタシア *ANASTASIA (A. NEWMAN)*	4:15
7.	スウェーデンの森 *CHATEAU EN SUEDE (R. LE SENECHAL)*	3:19
8.	悲しみを告げる森 *ETERNAL FOREST (F. DARD)*	4:04
9.	男と女の詩 *LA BONNE ANNEE (F. LAI)*	2:49
10.	ミストラルは永遠に *LAST MISTRAL (F. DARD)*	3:12
11.	夕映えのモンマルトル *MONMARTRE (F. DARD)*	2:47
12.	マルセリーノの歌 *MARCELINO PAN Y VINO (P. M. SOROZABEL)*	3:20
13.	悲しみは星影と共に *ANDOREMO IN CITTA (I. VANDON)*	2:11
14.	うず潮 *MARTIN ET LA MER (M. LEGRAND)*	5:52
15.	夢幻飛行 *MIDNIGHT CRUISE (R. WELLS)*	3:57

■ナレーション：城 達也 (1, 2, 14, 15)　■SE入り (1〜14)
■演奏：フレデリック・ダール&オーケストラ

「駅」はいつもドラマの舞台だった・・・・・・

「駅」は必ずしも、哀しい別れの場所ではない。うれしい出会いもあれば、心はずむ旅立ちもある。しかし、なぜか「駅」という言葉には、甘酸っぱくうずくような別離のイメージがつきまとう。それは、いつか見た映画の名場面が、あまりにも鮮烈だったからかもしれないー。

「終着駅／Terminal Station」

1953年・米・白黒
監督／ビットリオ・デ・シーカ
音楽／アレッサンドロ・チコニーモ
主演／ジェニファー・ジョーンズ、モンゴメリー・クリフト
※　舞台は、当時、新装成ったばかりのローマ・テルミニ（ROMA TERMINI）駅。一人旅のアメリカ女性とイタリア青年の、わずか数日間の恋の物語りを描いた。

メアリー（ジェニファー・ジョーンズ）はアメリカに良人と子供を残し、ローマの妹を訪ねる小旅行を終え、今、帰路につこうとしている。パリ行きのチケットも買い、列車を待っているところに、ローマ滞在中のガイドを努めてくれたイタリア青年・ジョバンニ（モンゴメリー・クリフト）が飛び込んでくる。メアリーをこのまま帰したくないーそう願うジョバンニは、執拗に引き止める。

メアリーもジョバンニには好意以上の気持ちを持っているものの、祖国には良人も子供も待っている。帰らなくてはいけない。

どうしても、ローマに残ることを受けいれないメアリーに、ジョバンニは激しく愛を訴えるが、やがて、感情の高ぶるまま、メアリーを衆人が見る中でなぐりつけ、駅を飛び出してしまう。

それも一時のこと、気を取り直したジョバンニは、駅に戻る。そこには悄然も立ちつくすメアリーの姿があった。

狂ったようにメアリーを抱きしめるジョバンニ。激しい抱擁に、メアリーは、やがて理性を失い、良人も子も忘れ、男の胸に飛び込もうとさえ考える。

退避線の客車の中で抱き合う二人は、駅員に見咎められてしまう。そして、駅長室へ。だが粋な駅長のひと言でメアリーは救われる。「奥さん、ご主人とお子さんの所へ帰りなさい」

メアリーは次の列車に乗った。それでもあきらめ切れないジョバンニは車内に残ったが、飛び降りなくてはならなくなる。線路に転がるジョバンニを残し、列車は去っていった。

「旅情／Summer Time」

1955年・英・カラー
監督／デビット・リーン
音楽／アレッサンドロ・チコニーニ
主演／キャサリン・ヘップバーン、ロッサノ・ブラッツィ
※　こちらはベニス駅が舞台となるが、やはり旅行中のアメリカ女性とイタリア男の短い恋と別れがテーマ。主題曲「ベニスの夏の日」が大ヒットした。

40歳間近のオールドミス・ジェーン（キャサリン・ヘップバーン）は、アメリカの地方都市に勤める秘書。永年の夢がかなって、あこがれの都・ベニスにやってきた。そこで骨董屋の主人レナード（ロッサノ・ブラッツィ）と知り合い恋におちる。

初めて知る幸福な愛の時間。しかし、別れの時は迫ってきた。この愛は仮の姿、いつまでも美しいままに残すためには、ベニスを去らなければならない…心を決めたジェーンは、引き止めるレナードの手を振り切り、ゴンドラに乗り、去っていく。

そしてベニス駅。ジェーンを乗せた列車は間もなく発車しようとしている。去る決心をしたもののレナードに思いを残すジェーン。もしかして見送りにきてくれるのではないかと、プラットフォームから目を離す事ができないでいるがレナードは現われない。

やがて発車の汽笛が鳴り、列車は動き出した。力なく車窓から外をながめているジェーン。その時ホームに駆け込んできた男の姿が目に入った。レナードだ。手に白い小箱とくちなしの花を持っている。

レナードは走る列車を追いかけ、せい一杯手ををのばして、その2つをジェーンに渡そうとするが、次第に速度を上げる列車の窓にはとどかない。それはまるで、つかもうとしてもつかめない、夢の中の宝箱のようだった。

このCDは1986年に制作されたジェットストリームシリーズの音源を使用し、当時のオーケストラと城 達也氏のナレーションで構成されたものです。

〈CDの取り扱い上のご注意〉●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。〈CDの保管上のご注意〉●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重い物を置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。